

第 29 回日本 IVF 学会 学術集会

O-41

鹿児島, 2026.9.26-27

SEET 法における胚培養液の違いが妊娠成績に与える影響：SAGE 1-Step と CSC-NX の比較

HORAC グランフロント大阪クリニック

平芽育 佐藤学 森本義晴

【目的】 SEET 法において使用する胚培養液の種類が、最終的な臨床成績に及ぼす影響については十分に明らかにされていない。本研究では、当院で SEET 法を実施した症例を対象に、SAGE 1-Step™ (CooperSurgical 社) と Continuous Single Culture-NX (FUJIFILM Irvine Scientific 社) の 2 種の培養液間で妊娠成績に差異があるかを後方視的に検討した。

【対象と方法】 2022 年 4 月～2025 年 4 月に当院において SEET 法を併用し凍結融解胚盤胞移植を行った 1032 周期を対象とし、使用培養液により SAGE 群 (516 周期) と CSC 群 (516 周期) に分類した。両群における患者背景 (採卵時年齢、移植時年齢、移植回数、Day6 までの凍結胚盤胞数等)、移植胚の質 (グレード)、および臨床的妊娠率を比較検討した。統計学的検討として、単変量解析による比較に加え、患者背景や胚質を交絡因子として調整した多変量ロジスティック回帰分析を用いた。なお、SEET 液は培養システムの都合上、培養に使用された培養液すべてを回収し 1 回分とした。

【結果】 患者の平均採卵時年齢は SAGE 群 36.3 歳、CSC 群 36.0 歳であり、両群間で基礎背景に著明な偏りは認めなかった。単変量解析による比較において、臨床的妊娠率は SAGE 群で 44.2%、CSC 群で 39.5%となり、SAGE 群において有意に高値を示した ($p=0.009$)。しかしながら、採卵時年齢や移植胚のグレード等を共変量として組み込んだ多変量解析の結果、培養液の違いは胎嚢確認に対する独立した有意な影響因子としては抽出されなかった (オッズ比: 1.27, 95%信頼区間: 0.99-1.65, $p=0.064$)。

【考察】 SEET 法における SAGE 1-Step と CSC-NX の比較において、単純比較で認められた成績の差は、多変量解析により消失した。このことから、見かけ上の妊娠成績の違いは培養液そのものの特性ではなく、患者年齢や移植胚の質といった背景因子の交絡によるものである可能性が高いと考えられる。本検討の範囲内において、いずれの培養液を用いても SEET 法において同等の臨床成績が期待できることが示唆された。